



もじゃ
もじゃ
進化論
しん 3ん
ぽいすりー



むかしむかし、うちゅうの かたすみに

「もじゃもじゃのほし」とよばれる

ほし がありました。このほしの いきものたちは

みんな ^け毛むくじゃら。

ふわふわ もこもこ さらさら。

^け毛は それぞれ こせいいっぱい。

このほしでは 毛は ただの毛ではありません。


からだを まもるやくめは もちろんのこと
のびちぢみして とおくのものに さわれたり
いっぼんいっぼんを おもいのままにうごかすことが
できたりもするのです。

さらに なかまどうしで 毛をふれあわせると
「こんにちは」や「ありがとう」がつたわって
きもちや おもいでも きょうゆうできる、
ふしぎで たいせつなものでした。



ところがあるひ このほしに
毛のない ツルツルないきものたちが
うまれました。





かれらは毛をもたず そのかわりに
ことばや どうぐをつくりだしました。
「毛がなくても、ぼくらはやっていけるよ！」
ツルツルたちは ほしのすみっこで
じぶんたちだけの世界を ひろげていきました。

そんなツルツルたちのことを、
もじゃもじゃのほしを まもるめがみモジャーナさまが
そらから ながめていました。
「毛をなくしてしまうなんて…… そんなのダメじゃない！」



みかねたモジャーナさまは

あるとき ツルツルたちをよびつけました。

「毛は このほしの たからもの。

毛がないと みんなバラバラになってしまうわ！」



でも、ツルツルたちはこたえます。

「ぼくらは毛がなくても へっちゃらだよ。

ほしのぞとまで いけるくらいに

ぼくらじんるいは しんかするんだ！」

おこったモジャーナさまは おごそかにいました。

「毛をすてたあなたたちには、

争いと孤独という しれんがまっています。

それをのりこえたときに、またあいましょう。」

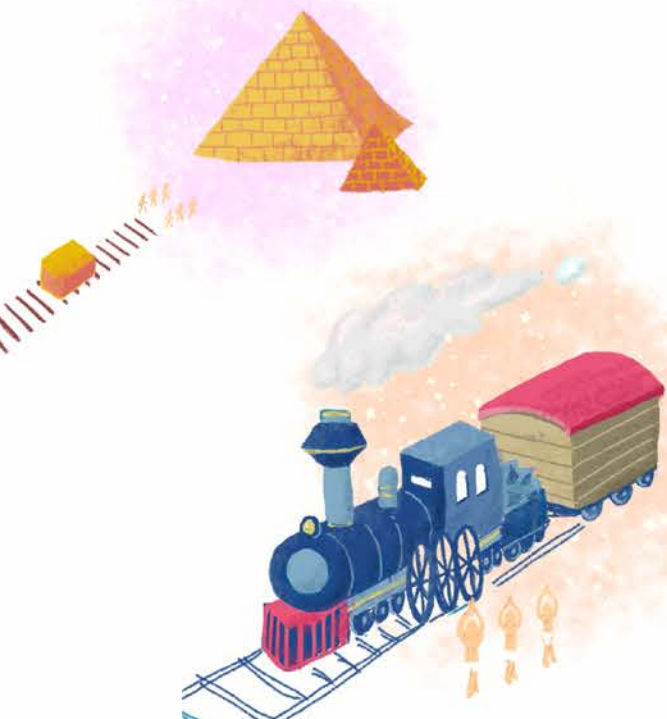
それから、なんじゅうまんねんもたちました。

ツルツルたちは ほしをとびだし、いまやかれらの^{せ かい}世界は
うちゅうにまでひろがっています。

けれども ^{あらそ}争いはたえません。

じんるいは みんなこころのどこかで
さびしくおもっています。

「どうしてぼくらは、もっとなかよくできないんだろう？」

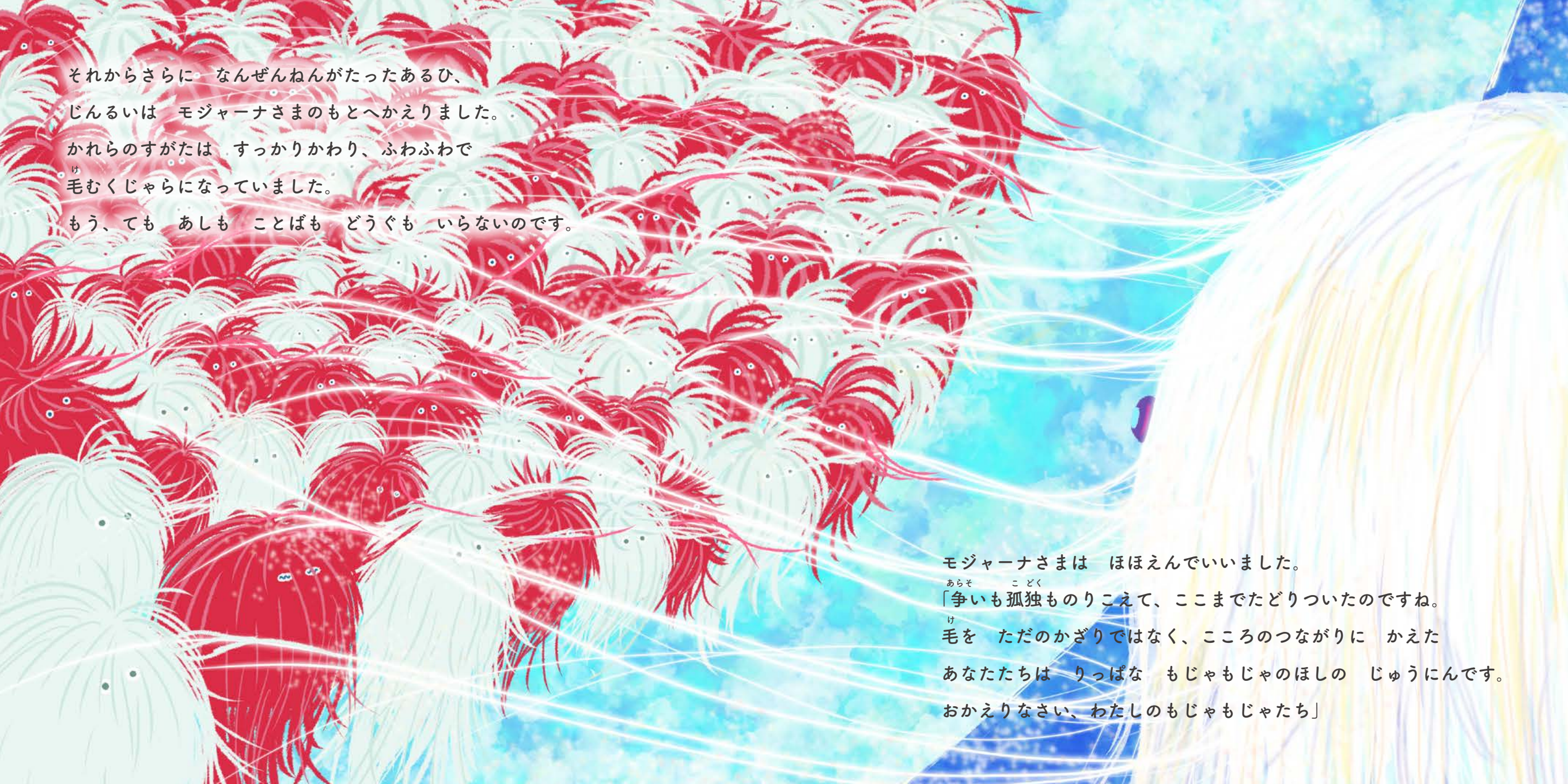


あるとき、ひとりの かがくしゃがきづきました。
「そうだ！ 毛がすべてのこたえなんじゃないか？」
ツルツルたちは けんきゅうをはじめ、
じんこうてきに毛をはやすほうほうを みつけました。




毛がふわりともどると、はるかむかしのよう
ふれあうだけで「こんにちは」がつたわりました。
「ああ これだよ！ これがぼくらに たりなかったんだ！」
みんなえがおになり、すこしずつ争いが あらせきえていきました。





それからさらに なんぜんねんがたったあるひ、
じんるいは モジャーナさまのもとへかえりました。
かれらのすがたは すっかりかわり、ふわふわで
毛むくじゃらになっていました。
もう、ても あしも ことばも どうぐも いらないのです。

モジャーナさまは ほほえんでいました。
「あらせ争いもこどく孤独ものりこえて、ここまでたどりついたのでね。
毛を ただのかざりではなく、こころのつながりに かえた
あなたたちは りっぱな もじゃもじゃのほしの じゅうにんです。
おかえりなさい、わたしのもじゃもじゃたち」



いま かれらの毛は、ただの毛ではありません。
ほしほしのひかりをうけて かがやき、
うちゅうぜんたいとつながる
アンテナのようなやくわりを はたしています。
もじゃもじゃのほしは またひとつになり、
こんどは うちゅうとつながっていきます。

いつかむかしに すててしまった
けれど
いちばんたいせつだった
あなたの“毛”はなんですか？



